

2012年度(平成24年度)

事業報告書

(第2事業年度)

自 2012年1月1日
至 2012年12月31日

2013年3月6日



公益社団法人 企業メセナ協議会
Association for Corporate Support of the Arts

目 次

I. 法人の概況	2
1. 公益社団法人設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 公益法人の認定に関する事項	
5. 会員の状況	
6. 役員等	
7. 会議等の開催状況	
II. 組織運営の概況	5
1. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進	
2. 入会・寄付促進活動	
2-1. 入会促進	
2-2. 寄付の受入促進	
3. 事務所の移転・開設	
III. 2012年度の事業概要	8
1. 促進普及事業	8
1-1. セミナー	
1-2. メセナネットワーク	
1-3. 広報活動	
2. 情報集配・仲介事業	12
2-1. 機関誌『メセナ note』	
2-2. WEB等情報システム	
2-3. 資料収集	
2-4. 出版	
2-5. コーディネート	
3. 調査研究・提言事業	17
3-1. 調査研究	
3-2. 提言・提案活動	
4. 協力連携事業	18
4-1. 地域メセナ交流・推進	
4-2. 国際交流	
4-3. 協力連携	
5. 顕彰事業	22
5-1. メセナアワード2012	
6. 助成事業	24
6-1. 助成認定制度	
6-2. 震災復興支援事業「東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド」	
決算報告 貸借対照表・正味財産増減計算書等	29

I. 法人の概況

1. 公益社団法人設立年月日

2011年1月6日

※ 1990年4月20日設立の旧社団法人は、移行認定に伴い2011年1月5日に解散登記を行った。

2. 定款に定める目的

この法人は、企業をはじめ芸術文化に関わる団体が参加、協働し、芸術文化振興のための環境づくりと基盤整備に努め、創造的で活力にあふれた社会、多様性を尊重する豊かな社会の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

この法人は、先の目的を達成するために、次の公益目的事業を行う。

- (1) 企業による芸術文化支援の促進と普及
- (2) 芸術文化支援に関する情報の収集・発信および仲介・協力
- (3) 芸術文化支援に関する調査・研究および文化政策に関する提言・提案
- (4) 国内外の芸術文化振興に関する団体・機関との交流・連携および企業相互の協力・連携による芸術文化支援の推進
- (5) 企業等による芸術文化支援活動の顕彰
- (6) 芸術文化活動への寄付を促す助成に関する事業
- (7) その他公益目的を達成するために必要な事業

この法人は、公益目的事業の推進に資するための事業を必要に応じ行う。

4. 公益法人の認定に関する事項

当該事業年度(2012年度)において、認定法の規定により内閣府から受けた勧告、または命令はなかった。

5. 会員の状況

正会員:133社・団体 準会員:36社・団体 (2012年12月4日現在)

6. 役員等

2012年12月4日現在

会 長	福原義春	株式会社資生堂 名誉会長
副会長	箱島信一	株式会社朝日新聞社 顧問
理事長	福地茂雄	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
専務理事	加藤種男	公益社団法人企業メセナ協議会 専務理事
理 事	一橋 忠	株式会社資生堂 企業文化部 150年史編纂プロジェクト編集長
	片山正夫	公益財団法人セゾン文化財団 常務理事
	高嶋達佳	株式会社電通 取締役会長
	福川伸次	地球産業文化研究所 顧問
	舟橋香樹	大日本印刷株式会社 ICC本部 本部長
	星 久人	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
	南 直哉	東京電力株式会社 社友
	吉本光宏	株式会社ニッセイ基礎研究所 主席研究員・芸術文化プロジェクト室長
監 事	岩田武司	弁護士
	出塚清治	公認会計士
名誉理事	池田弘一	アサヒグループホールディングス株式会社 相談役
	梅田貞夫	鹿島建設株式会社 代表取締役会長
	北島義俊	大日本印刷株式会社 代表取締役社長
	小林一生	日本生命保険相互会社 取締役専務執行役員
	櫻井孝穎	第一生命保険株式会社 特別顧問
	佐々木 元	日本電気株式会社 特別顧問
	佐治信忠	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長
	佐藤正敏	株式会社損害保険ジャパン 取締役会長
	杉田亮毅	株式会社日本経済新聞社 参与
	張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 取締役会長
	塚本能交	株式会社ワコールホールディングス 代表取締役社長
	福武總一郎	株式会社ベネッセホールディングス 取締役会長
	評議員	足立直樹
上田卓司		株式会社フジタ 代表取締役社長執行役員
鍛冶舎 巧		パナソニック株式会社 常務役員
成田純治		株式会社博報堂 代表取締役会長
野口一彦		キヤノン株式会社 執行役員渉外本部本部長
林 有厚		株式会社東京ドーム 代表取締役会長
前田晃伸		株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問
矢崎和彦		株式会社フェリシモ 代表取締役社長
顧 問	堤 清二	公益財団法人セゾン文化財団 理事長

II. 組織運営の概況

「連携強化元年」

多彩なメセナをコーディネートする企業メセナ協議会

2012 年度の特筆すべき事項として、何よりも、会員各社による実に多様で幅広い文化を通じた社会創造活動の展開を挙げたい。先駆的な活動や地道な継続が全国各地で開花してきており、地域社会への寄与を中心に、その社会的価値が高く評価され始めている。結果、当協議会にも、専門機関としての期待が寄せられ、会員はじめ内外のさまざまな機関や団体との協力・連携が深まり、多彩なメセナのコーディネーターとしての地位が強固なものとなってきている。

さらに本年度は、理事はもとより運営企画委員をはじめ部会やワーキンググループのメンバー主導による事業展開が実現し、多彩な連携の効果とともに組織としての活性化が図られた一年であった。

■ 会員主体の事業推進、運営体制の強化

- 第 2 回社員総会での役員改選および期中にも新たな理事・評議員を迎えてガバナンス体制を強化するとともに、協議会事業の推進や内外の文化振興機関等との連携においても役員が先導的な役割を率先して果たした。それにより「連携元年」に大きく貢献した。
- 各事業や活動における新体制が機能し始め、部会・ワーキンググループにより調査研究、顕彰、機関誌、助成事業が運営され会員相互のネットワークづくりが推進された。それに伴い運営企画委員会での議論も活性化し、会員の実務担当者の積極的な参画が図られた。

■ 中間支援組織、メセナ専門機関としての存在感をアピール

- 調査研究の事業受託をはじめ、専門機関としてコーディネート事業や外部の協力依頼、コンサルティングに積極的に応じた結果、事業収益が前年度に比べて大きく増加した。さらに、助成認定制度を利用した寄付金が増え、「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド」(GBFund)では祭りや郷土芸能を重点的に支援する「百祭復興プロジェクト」枠を設けるなど、中間支援組織としての存在感を高めた。
- 震災一周年を機に、文化による地域コミュニティ再生策である「ニュー・コンパクト」を「東日本大震災後の社会構築に関する提言」として改定し、広く発信した。当協議会のミッションである「芸術・文化による社会創造」を集約した内容で、その重要性はますます高まっていると考えられる。
- ホームページの改訂とともに SNS を活用した広報に取り組み、機関誌『メセナ note』では社会の時事的な課題に即応したテーマを掘り下げるなど、発信力を高めた。各事業の成果として開催するシンポジウムやフォーラム等でも、新たな人脈・ネットワーク形成を果たした。

1. 部会・ワーキンググループによる事業・活動の推進

協議会の事業推進とネットワーク強化のための活動を担う部会、ワーキンググループについては、以下のメンバー・頻度にて活動を実施した。

【◎:部会長／グループリーダー、○:サブリーダー、()内は会議の実施回数 *催し等は除く】

【会員ネットワーキンググループ】 (5回:1/12、4/5、8/1、10/3、11/20)

会員相互の交流・連携強化を目的とし、情報交換・相談・研鑽等を恒常的に行える場を設ける。既存の会議や各事業に関連づけた会合を開くほか、会員自らのメセナ活動にかかわる日常的な課題について話し合うなど、恒常的に集う場・出会う場を設けて、相互のネットワークづくりに貢献する。

◎星 久人(ベネッセホールディングス)、○飯島 健(新国立劇場運営財団)、
○宗村 泉(凸版印刷)、宮田昌尚(朝日新聞社)、岡部三知代(竹中工務店)、
美馬直輝(Rightning Consulting)、菅沼比呂志(リクルートホールディングス)、天坊真彦(リソー教育)、
森本智子(ワコールホールディングス)

【顕彰部会】 (5回:1/19、6/21、7/30、8/10、10/30)

メセナ活動に取り組む企業・企業財団等を励ますとともに、社会からのメセナに対する関心を高めることを目的とする顕彰事業「メセナアワード」の運営を担う。①運営方針の検討・決定、②応募案件の推薦・調査協力、③応募案件の調査・検討、選考会への推薦、④選考会運営(部会長のみ)、⑤贈呈式の運営。なお部会の名称を、「大賞部会」から「顕彰部会」と改称した。

◎澤田澄子(キヤノン)、佐々木 亮(サントリー芸術財団)、岡田恭子(資生堂)、
丹保有充(損害保険ジャパン)、細島 芳(第一生命保険)、中澤宏昭(電通)、清水義昭(トヨタ自動車)

【調査研究部会】 (3回:2/24、7/17、9/10)

企業・企業財団によるメセナ活動の実態や傾向、意識等を調査し、広く社会に紹介するとともに、メセナ活動を行う企業・実務担当者が求める情報を提供する。あわせて、企業メセナを推進する上での課題や、芸術文化支援の環境整備にかかわる問題を研究する。

◎高井健吉(富国生命保険)、◎吉村真也(TOA)、友野宏章(アサヒビール/～7月)、
相澤麻希子(花王)、酒井香世子(損害保険ジャパン)、山本真由美(トヨタ自動車)、
真貝昭広(日本経済新聞社/～11月)、南野嘉治(日本生命保険)、岡崎真理(三井住友銀行)

【助成ワーキンググループ】 (5回:2/16、4/13、7/2、8/27、10/17)

94年より運営する「助成認定制度」の改変、および「GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)」をはじめ、今後協議会に求められる助成制度、ファンドのあり方を検討し、制度設計を行う。

◎大野マリ(日本オラクル)、市村作知雄(アートネットワーク・ジャパン)、根本ささ奈(アサヒビール)、
樋口昌樹(資生堂/～9月)、片山正夫(セゾン文化財団)、石綿祐子(東京都歴史文化財団)、
高萩 宏(東京都歴史文化財団)、山本真由美(トヨタ自動車)、吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)

【機関誌ワーキンググループ】 (3回:2/28、6/12、12/7)

協議会機関誌『メセナノート』の特集テーマや寄稿者、媒体活用方法や展開などを検討する。

室井俊二(板室観光ホテル大黒屋)、石井智子(サントリーホールディングス)、
山内美根子(資生堂/～4月)、川北 英(竹中工務店)、舟橋香樹(大日本印刷)、
山辺清和(日本電気/～9月)、坂村道子(フェリシモ)

2. 入会・寄付促進活動

2-1. 入会促進

- 協議会パンフレットや会員一覧、入会申込書を全面的にリニューアルし、入会促進の各種ツールとともに整備した。
- 多彩な企業・団体に入会促進を行うために会員資格について検討を行い、理事長が認める場合において、①企業以外の団体であっても正会員候補とし、②中小企業については準会員候補として、理事会にはかることができるよう定めた。結果、既存の準会員より2団体が、正会員として会員資格を変更することとなった。
- 入会促進活動に会員の協力を仰ぐため、10月に「入会促進プロジェクトチーム」を発足させた。3カ年にわたる入会促進キャンペーンの計画を具体化し、戦略的に推進すべく、活動に着手した。
- 2012年度は45社・団体に対し入会の働きかけを行い、6社が正会員に、3団体が準会員として入会した。

【入会促進プロジェクトチーム】（3回：10/1、11/16、12/12）

◎一橋 忠（資生堂）、○舟橋香樹（大日本印刷）、宮田昌尚（朝日新聞社）、
酒井香世子（損害保険ジャパン）、藤井浩美（日本電気）、星 久人（ベネッセホールディングス）

【会員状況】

区分	2011年12月6日現在		2012年12月4日現在	
正会員	129社	276口	133社・団体	273口
準会員	38社・団体	39口	36社・団体	37口

2-2. 寄付の受入促進

公益社団法人化に伴い、協議会への寄付が税制優遇の対象となることから、寄付受入のための専用口座を開設し、寄付申込書を作成するなど告知活動を行っている。ウェブサイト掲載や寄付申込書の配布等を行っているが、現在のところ成果に結びついていない。

3. 事務所の移転・開設

2012年3月20日、新たな事務所に移転した。移転先の選定にあたっては、管理費の削減を重視するとともに、会員や文化関係者等が気軽に訪れ、活用できる事務所づくりに配慮した。

【移転先：東京都港区芝5丁目2-3 アイセ芝ビル8階】

Ⅲ. 2012 年度の事業概要

「連携強化元年」を目標に掲げた 2012 年度は、各事業において部会やワーキンググループ主導の運営が本格的に機能し、個々の活動を通じて協議会内外のネットワークが強化され、メセナの輪を広げた年だった。会員のみならず文化関係者が集う機会を「メセナネットワーキング」で積極的に設けたほか、「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド(GBFund)」では、被災地と寄付者をつなぐ中間支援組織として情報提供や視察、フォーラムなどを実現。調査研究や顕彰事業でも多彩なアウトプットに努め、メセナの専門機関としての存在感を高めることができた。

以下、次の 6 つの公益目的事業について、計画に対する実績および成果を報告する。

1. 促進普及事業	1) セミナー、2) メセナネットワーキング、3) 広報活動
2. 情報集配・仲介事業	1) 機関誌『メセナ note』、2) ウェブサイト等情報システム、3) 資料収集、4) 出版、5) コーディネート
3. 調査研究・提言事業	1) 調査研究、2) 提言・提案活動
4. 協力連携事業	1) 地域メセナ交流・推進、2) 国際交流、3) 協力連携
5. 顕彰事業	1) メセナアワード 2012
6. 助成事業	1) 助成認定制度、2) 震災復興支援事業(GBFund)

1. 促進普及事業

1-1. セミナー

【計画】 企業、文化機関等の現場担当者に限らず、広く一般の方々を対象に、メセナや芸術文化をとりまく諸問題をテーマとしたセミナーやシンポジウムを随時開催する。協議会事業を通じて蓄積した情報のアウトプットに努め、他の事業と連携した企画を行う。

- 2012 年度は、調査研究や顕彰、助成等、各事業の成果として行う報告会やフォーラムのほか、会員ネットワーキングの主催により勉強会やフィールド視察等を実施しており、詳細は各事業において報告する。
- 単独のセミナー事業としては、芸術団体等に好評の定番セミナー「企業メセナへのアプローチセミナー」(2007 年開始)を実施し、文化関係者やアートNPOなど、企業との関係構築に関心ある参加者を集めた。

「企業メセナへのアプローチセミナー 2012@東京」

- 実施日: 2012 年 11 月 14 日(水)
- 会場: 日本財団ビル会議室
- ゲスト: 相澤麻希子(花王[株] コーポレートコミュニケーション部門社会貢献部)
徳永恵美子([公財]日本 YMCA 同盟 国際賛助会事務局長)
- モデレーター: 荻原康子([公社]企業メセナ協議会事務局長)
- 参加者: 84 名(定員 100 名)



1-2. メセナネットワーク

【計画】 会員相互のコミュニケーションの活性化を図り、情報交換・研鑽・相談などが恒常的にける場を設ける。あわせてメセナに関わる企業・団体のつながりを広く持ち、「メセナの輪」を拡げ、多様なネットワークの形成に資する。

- 月次開催の運営企画委員会では、委員各社に会場を提供いただいた。その際、各社の施設や公演等の視察、交流会などにもご協力いただき、情報交換の機会ともなった。
- 会員ネットワークグループの主催により、勉強会等を企画・実施した。従来は事務局の主導で運営していた「新入会員ファーストミーティング」を、ネットワークグループ幹事の企画で行ったほか、「会員ネットワーク勉強会」として、会員企業のメセナの現場を訪れた。
- 賀詞交歓会では理事はじめ約 100 名の会員が参加。部会・ワーキンググループの活動紹介とともに、GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)で協力関係にある全日本郷土芸能協会の小岩秀太郎氏をゲストに招き、被災地での伝統芸能や祭の状況について報告いただき、情報交換と交流を促した。
- 2011 年度より秋に行っている会員交流会では、新たに入会したパソナに会場を提供いただき、「メセナアワード 2011」で大賞を受賞した千島土地の芝川社長による講演と懇親会を行った。
- 会員向けメールマガジンを刷新し、毎月初めに約 1,500 名に配信した。協議会が主催する各種催しの案内のほか、会員のメセナ情報やセミナー等の情報も発信。さらに詳細な活動レポートを公式サイト内「会員専用ページ」に掲載するなど、タイムリーな情報発信に努めた。
- 加藤専務理事の主催による「タネ Cafe」を、事務局ライブラリースペースにて開催(8/29、9/24、11/6)。アートや文化に関わる幅広いトピックスを中心に語り合うゆるやかな会合で、会員はじめ文化関係者が毎回 10 名ほど集う、情報交換と交流の場となった。

【運営企画委員会および合同会議協力一覧】

1 月 25 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> • 会場:資生堂銀座ビル(協力:資生堂) ※資生堂ギャラリー視察
4 月 12 日(木)	<ul style="list-style-type: none"> • 会場:NEC 本社ビル(協力:日本電気) ※徒歩 5 分圏内の協議会事務局オフィスで新オフィスお披露目および交流会
5 月 18 日(金)	<ul style="list-style-type: none"> • 会場:DNP 銀座ビル(協力:大日本印刷) ※ギンザ・グラフィック・ギャラリー(ggg)視察
6 月 19 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> • 会場:電通本社ビル(協力:電通) ※社内に設置されたコミッションアートワークのギャラリーツアー
7 月 13 日(金)	<ul style="list-style-type: none"> • 会場:トヨタ博物館(協力:トヨタ自動車) ※下記フィールド視察参照
9 月 21 日(金)	<ul style="list-style-type: none"> • 会場:読者ホール(協力:朝日新聞社) ※朝日新聞本社見学ツアー、懇親会
10 月 24 日(水)	<ul style="list-style-type: none"> • 会場:損害保険ジャパン本社ビル(協力:損害保険ジャパン) ※損害保険ジャパン東郷青児美術館視察

11月21日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 会場:日本生命日比谷ビル(協力:日本生命保険) ※日生劇場ツアー、青少年のための「日生劇場オペラ教室」『フィガロの結婚』鑑賞
-----------	---

【賀詞交歓会】

1月25日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 会場:資生堂ワード/資生堂ギャラリー(東京都中央区銀座) 参加者:100名 ゲスト:小岩秀太郎(全日本郷土芸能協会)
----------	--

【新オフィスお披露目および交流会】

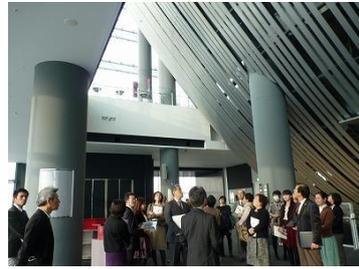
4月12日(木)	<p>会員および関係者に呼びかけ、3月末に移転したオフィスのお披露目を兼ねた交流会を実施。約35名が集まった。</p>
----------	---

【新入会員ファーストミーティング】 ※会員ネットワーキンググループ主催

4月25日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 会場:慶應義塾大学三田キャンパス 社中交歓 萬來舎(東京都港区三田) 参加者(※新会員):隅田真弘、吉田清一郎、幸 雅文(丹青社)/岡 秀男(中外製薬)/安西正史(パソナ)/川奈部淳一(東日本旅客鉄道)/鈴木雅子(ベネフィット・ワン)/山田四郎(水と土の芸術祭実行委員会)
----------	---

【会員ネットワーク勉強会】 ※会員ネットワーキンググループ主催

7月3日(火)	<p>会員ネットワーキンググループ×三菱地所[会員ネットワーク勉強会 2012#1]</p> <p>「三菱地所の CSR を文化の視点で掘り下げる、大丸有フィールド視察」</p>  <ul style="list-style-type: none"> 発表:加藤浩志(三菱地所 街ブランド企画部)/鬼柳求(三菱地所 美術館室) 場所:新丸ビルプレゼンルーム、三菱一号館美術館ほか(東京都千代田区丸の内) 協力:三菱地所 参加者:26名(※定員20名)
---------	---

11月29日(木)	<p>会員ネットワーキンググループ×東急電鉄[会員ネットワーク勉強会 2012#2]</p> <p>「渋谷から世界へ。まちの魅力発信拠点『渋谷ヒカリエ』の文化的役割」</p>  <ul style="list-style-type: none"> 「渋谷のまちづくりと渋谷ヒカリエの文化戦略について」発表:西澤信二(渋谷ヒカリエ運営部) 場所:渋谷ヒカリエ(カンファレンスルーム、東急シアターオーブ、クリエイティブスペース8/) 協力:東京急行電鉄 参加者:24名(※定員20名)
-----------	---

【会員対象フィールド視察】

7月13日(金) -14日(土) ※1泊2日	<p>「本業を活かしたメセナを体感!『トヨタの社会貢献』フィールド視察」</p> <ul style="list-style-type: none"> 視察先(愛知県):トヨタテクノミュージアム 産業技術記念館、トヨタ博物館、トヨタの森(オプション)、豊田市美術館(オプション) 宿泊先:フォレストヒルズ(愛知県豊田市岩倉町) 協力:トヨタ自動車 参加者:22名(※定員20名)
------------------------------	---

【会員交流会】

9月10日(月)	<p>特別講演「創造的な活動の集積するまち、これからのメセナ」</p>  <ul style="list-style-type: none"> 講演&トークセッション:芝川能一(千島土地 代表取締役社長) トークセッション:加藤種男(企業メセナ協議会 専務理事) 会場:パソナグループ本部ビル 8階ホール(東京都千代田区大手町) 協力:パソナ 参加者:72名
----------	---

1-3. 広報活動

【計画】 企業メセナおよび協議会のプレゼンスを高めるべく、経営方針・戦略に基づく情報発信を行う。マスメディア対応はもとより、多様なソーシャルメディアを活用し、恒常的な広報を行う。

- 各事業の成果として配信するプレスリリースのほか、新聞、テレビ等メディアからの取材(来局・電話)があり、記事掲載に結びついた。昨年に引き続き、GBFund の活動状況や支援対象に注目が集まり、文化による震災復興支援に高い関心が寄せられた。NHK の復興支援番組、共同通信社の2013年正月特集配信記事につながったものもあった。
- GBFund 設立1年に際し、活動状況を報告し、新たな助成枠「百祭復興プロジェクト」を公表する記者発表会を3月9日に開催。あわせて「東日本大震災後の社会構築に関する提言 ニュー・コンパクト ver.2～文化による地域コミュニティ再生策～」も発表した。プレスリリースも配信。総会と同日開催のため、理事や会員も多数参加する記者発表となった(報道関係者13名参加)。
- 「メセナアワード 2012」では、贈呈式に報道関係者を集めることを目標として、受賞活動登壇者への「ぶらさがり取材」の機会提供を試みた(報道関係者31名参加)。通信社の配信記事以外に、受賞企業の地元紙・媒体での掲載や紹介、業界紙での取材記事の掲載があった。
- メセナに関する幅広い層の関心を高めるべく、Twitter や Facebook を協議会の広報ツールとして積極的に活用した。Twitter のフォロワーが1,323名、Facebook ページの「いいね！」(情報発信等コミュニケーションできるユーザー)が540名あり、会員のメセナ活動の広報協力も行っている。

【プレスリリースによる情報発信】

※掲載実績＝調査:9件、メセナアワード:107件、GBFund:41件

No.	配信日	リリースタイトル
1	1/18	2011年度「企業財団のメセナ活動実態調査」結果—各地の地域文化を牽引する「企業財団」のメセナ活動
2	3/9	東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド(GBFund)の新たな展開—「百祭復興プロジェクト」の設置と「ニュー・コンパクト ver.2」の提言
3	4/2	「メセナ アワード 2012」(第22回)の対象活動を募集—日本の社会に豊かさと活力を与える企業・企業財団の芸術文化活動を表彰—
4	6/8	GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)第6回助成活動を決定
5	9/26	2012年度「企業のメセナ活動実態調査」結果—企業が地域の文化振興に大きな役割～3.11震災後もきめ細やかな文化支援を継続
6	10/4	継続と連携、本業をいかした企業の芸術文化活動を表彰—「メセナ アワード 2012」受賞企業決定
7	11/21	GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)第7回助成活動を決定

【主な取材対応等】

※下記の他、来局・電話取材:16件

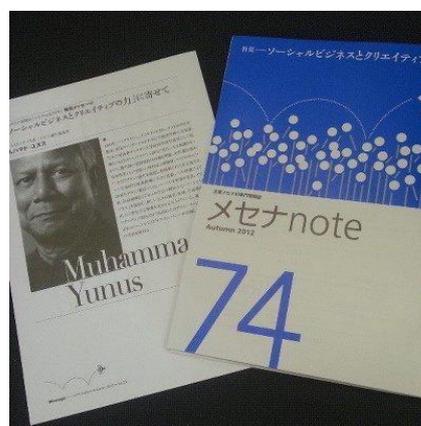
対応日	媒体	内容		掲載・放映日
2/6	朝日新聞	加藤専務理事インタビュー、GBFundの活動状況	来局	3/13
3/9	毎日新聞	GBFund 百祭復興プロジェクト、助成活動について	記者発表会	3/30
3/16	朝日新聞	GBFundの寄付総額、寄付件数について	電話	4/9
4/23	日本経済新聞	GBFund 活動状況について、助成活動紹介	メール	5/8
7/29	日本経済新聞	日本の文化遺産に対する外資系企業の支援	来局	8/4
10/4	NHK 八戸放送	帆風美術館のアワード受賞について	電話	10/5
10/23	NHK グローバル	郷土芸能を中心に震災復興状況の番組を制作	来局	1/13
11/20	共同通信	GBFundについて、文化による復興支援について	来局	2013/1/1
11/22	報道機関23社	メセナアワード2012受賞企業の取材	贈呈式	11/23(中日新聞)他

2. 情報集配・仲介事業

2-1. 機関誌『メセナ note』

【計画】 企業メセナ、文化政策、アート NPO、アートマネジメント等の動向やタイムリーな情報、事例などを取り上げるとともに、協議会の事業、取り組みを紹介する。機関誌ワーキンググループにより本誌の編集方針や企画内容を検討し、取材を行う。

- 協議会機関誌『メセナ note』の 72～75 号を次の内容で発行した。機関誌ワーキンググループにより本誌の役割について意見交換を行い、編集方針や企画内容を検討した。特集テーマや筆者の選定、取材にもメンバーが関わり、充実した誌面を実現できた。
- 74 号「ソーシャルビジネスとクリエイティブの力」では、特集ページを公開座談会のかたちで収録し、一般の聴講者を募った(参加者:機関誌購読者・会員限定 20 名)。また同号にて、ムハマド・ユヌス氏(ユヌスセンター代表、グラミン銀行創設者、ノーベル平和賞受賞者)より特別メッセージを寄せてもらうなど、新たな試みとなった。



- 72 号「メセナが広げる『共生社会』」、73 号「芸術・文化でつくる東日本大震災以降の社会」では、福祉の分野や震災復興に文化が果たす役割や企業の活動事例を紹介するなど、文化がさまざまな社会課題に対して貢献している例を挙げ、メセナの多様性を示した。75 号は顕彰事業「メセナアワード」の受賞活動を紹介し、協議会機関誌として事業紹介に努めた。
- 読者は会員はじめ年間購読者(約 270 名)、協議会関係者や図書館等に送付するほか、各事業や会員・関係者のセミナー等(慶應義塾大学アートセンター、内閣府復興庁、GBFund フォーラム)で参考資料として配布するなど、協議会の広報ツールとしても活用した。
- 発行に際しては、2011年に引き続き、12 社からの年間協賛をいただいた。

【『メセナ note』概要】

体裁	A5 判・32 頁、2 色刷り
発行頻度	季刊・年 4 回(3 月 15 日、6 月 15 日、9 月 15 日、11 月 22 日)
発行部数	3,500～4,000 部
読者層	協議会会員:約 800 部、年間購読者:約 300 部(美術館・NPO・財団など芸術文化団体、個人、企業、大学研究室、シンクタンク等研究機関、公立・大学図書館、行政機関等)。その他、公立・大学図書館・大学・文化施設・セミナー等で配布
協賛社 (五十音順)	アサヒビール/板室観光ホテル大黒屋/近畿労働金庫(73・74 号)/サントリーホールディングス/資生堂/損害保険ジャパン/第一生命保険/大日本印刷/トヨタ自動車/富士ゼロックス/ベネッセホールディングス/ワコールホールディングス

72号(3/15発行) 特集: メセナが広げる「共生社会」	
巻頭言: アート考/メセナ考	播磨靖夫 ([財]たんぽぽの家理事長) 文化的多様性を尊重する社会
特集	メセナが広げる「共生社会」 「慈善」から「共生・共存」へ/データに見る共生社会とメセナ/「アート×福祉×ビジネス」の仕組みづくり 特集寄稿 並河恵美子 NPO 法人芸術資源開発機構代表 社会に柔らかい風をおくるアートデリバリー
トップインタビュー	六花亭製菓[株]代表取締役社長 小田 豊 社会資本たりえるメセナ活動を
アROUND・メセナ	やまぐちくにこ ([特]淡路島アートセンター 理事) 淡路島のくらし方・アートNPO の視点から
メセナ散歩	CCGA 現代グラフィックアートセンター 福島の復興の脈動を伝えるアート拠点
文化政策 ウォッチング	塩谷陽子 (ジャパン・ソサエティー[ニューヨーク]芸術監督) 「芸術家緊急時救済制度」にみる芸術支援の成熟度
連載コラム	小山薫堂 (放送作家/脚本家) 拍手のしかた④「八起き」の国、日本
73号(6/15発行) 芸術・文化でつくる東日本大震災以降の社会	
巻頭言: アート考/メセナ考	アート考/メセナ考 加藤種男 (企業メセナ協議会専務理事) 「縁あって、まだメセナを担当しています」
特集	吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所主席研究員/企業メセナ協議会理事) 「震災が問いかけるメセナのこれから」 メセナ担当者にきく企業の取り組み/GBFund 活動のご報告 特集寄稿: 太下義之 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター主席研究員/センター長) 「東日本大震災があらわにした『もう一つの日本』」
トップインタビュー	アンリ・ロフレット (ルーヴル美術館館長) 芸術なくして人は生きられない——ルーヴル美術館の東日本大震災復興支援
アROUND・メセナ	太田倫子 (キッズ・メディア・ステーション代表理事) 「石巻日日こども新聞——未来を拓き、地域をつなぐこども記者」
メセナ散歩	板室温泉大黒屋 「最先端に行く温泉宿——アートスタイル経営の実り」
文化政策 ウォッチング	鶴田浩一郎 ([特]ハットウ・オンパク代表理事/[特]BEPPU PROJECT 理事) 「10 万人都市・別府で起こる地域活性と現代アート」
連載コラム	長友啓典 (グラフィック・デザイナー) ①「メセナ前夜」
74号(9/15発行) 特集: ソーシャルビジネスとクリエイティブの力	
巻頭言: アート考/メセナ考	アート考/メセナ考 梅原 真 (デザイナー) 「四万十川のスケダチ」
特集	座談会 「クリエイティブでビジネスが変わる! 生活が変わる!」 パネリスト: スプツニ子! (アーティスト) 谷口正和 ([株]ジャパンライフデザインシステムズ代表取締役社長) 山崎 亮 (studio-L 代表/コミュニティーデザイナー) モデレーター: 片山正夫 ([公財]セゾン文化財団常務理事/企業メセナ協議会理事) ソーシャルビジネスの本棚 特集寄稿: 渋澤 健 ([公財]日本国際交流センター理事長/コモンズ投信[株]会長) 「よそ者、若者、現代アーティストによる地域再生」
トップインタビュー	柳井 正 ([株]ファーストリテイリング 代表取締役社長兼会長) 「世界を変えるのは個人と私企業」
アROUND・メセナ	猪鹿倉陽子 (ライター) 「地元住民やアーティストとのコミュニティーをベースにしたまちづくり」
メセナ散歩	岡部三知代 ([株]竹中工務店ギャラリーエークワッド主任学芸員) 三菱一号館美術館 「アート・歴史を軸に醸成されるまちに咲く花」
文化政策 ウォッチング	山田創平 (京都精華大学人文学部専任講師/HAPS 実行委員) 「アーティストの新しい表現が社会を変える」
連載コラム	長友啓典 (グラフィック・デザイナー) ②「メセナの芽生え」

75号(11/22発行) 特集:メセナアワード2012	
特集	・メセナ大賞:アサヒビール株式会社
	・歴史をひもとく賞:キヤノン株式会社
	・文化の映写機賞:株式会社千葉銀行
	・支援のこころ賞:トヨタ自動車株式会社
	・四季のそよかぜ賞:株式会社帆風
	・未来のうけざら賞:三菱地所株式会社/株式会社イムズ/株式会社西日本新聞社
	・文化庁長官賞:東日本電信電話株式会社
	受賞企業プロフィール/トロフィー
	メセナアワード2012-2014 選考委員プロフィール
特集寄稿:佐々木亮 ([公財]サントリー芸術財団音楽事業部長) 「メセナと本能」	
トップインタビュー	「メセナアワード2012」メセナ大賞受賞: 荻田 伍 (アサヒグループホールディングス[株] 代表取締役会長兼 CEO) 「点から面へーネットワーク形成を通じた新たな文化の創出」
アROUND・メセナ	篠田千明(演出家/作家) 「イマが楽しいからアッチも楽しい☆☆☆ 福嶋麻衣子の21世紀型ビジネス戦略」
メセナ散歩	ポラスグループ 「コミュニティーの文化活動を基盤とするまちづくり」
文化政策 ウォッチング	岩崎ゆう子 ([一社]コミュニティシネマセンター事務局長) 「文化なしごと創造事業」
連載コラム	長友啓典 (グラフィック・デザイナー) ③「メセナの原点」

2-2. ウェブサイト等情報システム

【計画】 協議会公式ウェブサイトのリニューアルオープンを実施し、協議会の事業紹介や各種データの公開とともに、タイムリーな情報発信に努め、セミナー集客や出版物販売、コーディネート事業の展開などに結びつける。

- 長年の懸案事項であった協議会ウェブサイト(<http://www.mecenat.or.jp/>)の全面リニューアルを完了。会員のライトニングコンサルティングの協力により、低予算でリニューアルを行うことができた。あわせてコンテンツの充実に努めた。
- 幅広い層の関心を喚起するため、ブログ、ツイッター、フェイスブック等の SNS を活用し、協議会事業の告知や関係者より寄せられるセミナー情報等の告知等に活用した。
- 「メセナ活動実態調査」の結果を活用して企業・財団のメセナ情報を公開してきた「メセナビ」は、この間の情報環境の著しい変化により、調査研究事業(メセナ活動実態調査)と企業のメセナ活動の情報発信形態として必ずしも最善ではなくなったことから、ページを閉鎖した。

2-3. 資料収集

【計画】 企業メセナや芸術文化振興に関する資料の収集を行い、会員はじめ広く一般に公開するライブラリーの環境整備に努める。あわせて協議会事業にも活用する。

- 協議会事務所の移転に伴い、ライブラリー空間を刷新し、蔵書を整理した。開設後は引き続き、企業メセナ・社会貢献、CSR 活動および文化政策、アートマネジメント等に関する情報収集活動を行い、レファレンス対応も積極的に行った。資料検索や閲覧・コピーなど利用しやすい状況を整えた。
- ライブラリースペースを、アート NPO からの依頼で提供するほか、「タネ Cafe」の会場とするなど、人々が集い語らう場として活用した。

【ライブラリー概要】

公開時間	月曜～金曜日、11:00～17:30(要電話予約) ※事務所移転に伴う休館:3/5～4/6
開架資料	<ul style="list-style-type: none"> 和書・報告書: 1,450 冊(企業と文化・社会貢献、文化行政・文化政策、アートマネジメント・文化経済学、公益法人・NPO・文化税制、名簿・年鑑・一覧) CSR 報告書: 244 冊 洋書:562 冊(14 カ国の文化政策、アートマネジメント関連) 企業・企業財団の資料:約 1,055 企業・団体分 新聞・雑誌掲載記事(1989 年 12 月～2012 年 12 月) 定期刊行物:世界のメセナ組織、行政、芸術団体、研究機関、NPO、他 映像資料:約 364 点(メセナニュース、主催セミナー(1998-2001 年)、贈呈式、各社のメセナ他)
年間利用者数	15 名(大学・大学院生、企業、NPO 法人、文化団体等)



2-4. 出版

【計画】 既存出版物の広報・販売を行うとともに、各事業の成果や情報をまとめた報告集や記録等を適宜発行する。

- 機関誌『メセナ note』の年間購読者の維持・管理とバックナンバーの頒布、既刊発行物の在庫管理と広報、販売を行った。事務所移転に際し在庫の特価販売キャンペーンを行ったところ、予想以上のバックナンバー購入があった。
- 『企業メセナへのアプローチガイド(メセナセミナーシリーズ No.10、2007 年発行)』をテキストとして活用するセミナーを開催し、販売につなげた。

【年間書籍売上件数:513 冊】

- 『メセナ note』No.37～71:236 冊
- 『季刊メセナ』No.1～35:81 冊
- 『メセナセミナーシリーズ』 139 冊(うち「No.10」87 冊)
- 『メセナを知る本』 29 冊
- 『なぜ、企業はメセナをするのか』 1 冊
- 『メセナ白書シリーズ』(1991～2000) 16 冊
- 『メセナマネジメント』 4 冊
- 『いま、地域メセナがおもしろい』 5 冊
- 「阪神・淡路大震災 芸術文化被害状況報告書」 1 冊
- 「研究部会 2003 年度報告書:企業メセナの新たな展開」 1 冊



2-5. コーディネート

【計画】より多くのメセナプログラムの実現に貢献すべく、これまでの継続案件を含め受託案件の増加を目指す。事務局内の体制等を整え、コーディネート事業について会員企業はじめ行政や他機関にも広くアピールする。

- 例年継続している会員2社との協働・協力事業に引き続き注力した。2012年度の目標であった新規受託案件はなかった。
- コーディネート事業として受託には至らなかったが、会員企業からの相談を受けて新たなメセナプログラムを提案したり、外部からも商店街の空き店舗利用について相談を受けるなど、メセナのコンサルティングの要望に応えるかたちとなり、2012年度の事業方針「連携強化元年:多彩なメセナをコーディネートする企業メセナ協議会」を実践することができた。

【2012年度の受託案件】

※敬称略

依頼元	受託内容
トヨタ自動車	<p>「トヨタ・アートマネジメント」プログラムのコーディネート アートマネジメント総合情報サイト「ネット TAM」(www.nettam.jp)の企画・運営、月例更新(コンテンツ製作)、SNSによる広報。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一日のアクセス:平均 1 万 7455 ページビュー(PV) • 月間アクセス:平均 53 万 PV • 累計アクセス:約 2513 万 PV (2004年10月～2012年12月)
アサヒグループ 芸術文化財団	<p>すみだ川アートプロジェクト(SRAP)の企画・推進 2089年まで80年間続くSRAPの4年目は「江戸を遊ぶ」をテーマに、葛飾北斎の『北斎漫画』に注目して実施。夏のメイン期間をはじめ年間を通じて、多彩なアーティストや市民が集う催しを展開。これらの企画・運営をアサヒビールおよび同財団と連携して行った。</p> <p>① 「Oh! Hanami pARTy」 実施日:4月7日(日) 会場:アサヒ・アートスクエア</p> <p>② 「江戸を遊ぶ:北斎漫画 2089」 会期:6月16日(土)～7月31日(火) 会場:アサヒ・アートスクエア、アサヒグループ本社ビル1階&周辺広場、屋形船@隅田川、牛嶋神社、浅草寺伝法院ほか(東京) 主催:すみだ川アートプロジェクト実行委員会、アサヒグループ芸術文化財団 共催:AAF ネットワーク実行委員会、墨田区 特別協賛:アサヒビール 企画協力:企業メセナ協議会 協力:アサヒ・アートスクエア、墨田区文化振興財団、トッピングイースト</p> <p>③ 「Oh! Tsukimi pARTy」 実施日:11月14日(水) 会場:アサヒ・アートスクエア</p>



ネット TAM ロゴマーク



「アンサンブルズ・パレード」@隅田川

3. 調査研究・提言事業

3-1. 調査研究

【計画】 調査研究部会を中心に新たな手法・内容による「メセナ活動実態調査」を実施し、調査結果から浮かび上がる諸課題について掘り下げる。あわせて「時事トピックス調査」も行い、メセナ活動を通じて得たエピソードなど定性的な内容を把握できるような調査を目指す。

- 2011 年度に実施した「企業財団のメセナ活動実態調査」をまとめ、プレスリリースを発行したほか(1/18)、「スゴイぞ！企業財団～メセナを担う企業の財団を知る～」と題する報告会(2/24)を開催した。地域文化振興に貢献する企業財団3団体を招き、活動を紹介するとともに、メセナを通じた震災復興支援について、部会メンバーも交えた意見交換を行い、54名の参加者から好評を得た。議事録を、協議会ウェブサイトで公開した。

【2011 年度「企業財団のメセナ活動実態調査」報告会】

「スゴイぞ！企業財団～メセナを担う企業の財団を知る～」

- 実施日:2012年2月24日(金)
- 会場:第一鉄鋼ビル会議室(東京都千代田区)
- 内容:「企業財団のメセナ活動実態調査2011」結果報告
ゲスト3財団の事例報告をベースに、後半のフリートークでは、メセナ活動における財団活動の特徴を洗い出し、議論を深めた。
- ゲスト:高島文治([財]常陽藝文センター)、
角田佳奈子([公財]東日本鉄道文化財団)、
金代健次郎([財]文化・芸術による福武地域振興財団)
- モデレーター:太下義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング 芸術・文化政策センター主席研究員)
- 参加者:54名(定員50名)



- 一年ぶりに企業を対象とする「2012 年度メセナ活動実態調査」を実施。2011 年下半期に行った専門家等へのヒアリングを踏まえ、調査研究部会での議論を経て WEB 調査という新たな手法を採用した。492社から回答を得ており、集計結果を部会で分析・検討のうえ9月下旬に発表、プレスリリースを発行した。協議会ウェブサイトで情報を公開した。
- 下半期に計画した「“芸術のためのメセナ”から、“社会のためのメセナ”へ 企業の文化に関する取り組みのアンケート」を、協議会会員を対象として実施。104社から回答を得て(回収率:61.1%)、メセナ活動に取り組む利点や、東日本大震災後の担当者の気づきなどについて、エピソードを得た。本調査は、文化庁の「平成24年度 次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」に申請し、採択された(事業受託:691万5,000円)。

3-2. 提言・提案活動

【計画】 協議会の社会的な役割をさらに強化すべく、ニュートラルな立場をいかして、芸術文化振興のための基盤整備に関する政策を中心に提言(アドボカシー)を行う。

- GBFund 設立 1 年を経たタイミングで、活動状況を報告する記者発表会を 3 月 9 日に開催。それに伴い、「東日本大震災後の社会構築に関する提言 ニュー・コンパクト ver.2～文化による地域コミュニティ再生策～」を発表し、プレスリリースを行った。GBFund 運営を通じて実感した、文化による地域コミュニティ再生について再び提唱した。
- 同提言では震災後の社会構築について、①文化によるセーフティネットづくり、②文化を基盤とするコンパクト経済の推進、③文化による地域コミュニティ振興策の推進を提案している。
- 文化庁はじめ行政機関や文化団体、中間支援組織、教育機関等が集う「文化芸術による復興推進コンソーシアム」の設立に際し、3 月 13 日にシンポジウムと記者発表会が行われた。協議会からは福原会長が会見に臨み、GBFund の活動状況を報告するとともに、文化による震災復興が地域再生の重要なテーマである旨、見解を述べた。

4. 協力連携事業

4-1. 地域メセナ交流・推進

【計画】 全国各地の地域メセナ組織の交流・連携をサポートし、文化による地域振興に取り組む地場企業との交流と連携を推進する。

- 専務理事および事務局職員のセミナー出講やシンポジウム出演の機会等をいかし、各地で企業メセナに関する情報提供と、地域の文化団体との交流に努めた。2012 年度の主な交流地域は、福岡市、熊本県、佐賀県、沖縄県、京都府、静岡県、埼玉県、横浜市等であった。
- 各地でメセナ活動を行う諸団体の連絡会である「全国メセナネットワーク」(加盟 18 団体)の総会が、10 月 30 日に東京浅草の駒形どぜうにて開催され、協議会も一参加団体として事務局長が参加した。メセナ アワード受賞企業でもある駒形どぜう・渡辺孝之会長のお話と交流会の後、総会では、参加団体の現況報告と意見交換、あわせて 2013 年度から 2 年間監事団体となる ASCA (大田まちづくり協会)の紹介があった。
- 協議会の関西事務所である関西・大阪 21 世紀協会を拠点とし、メセナ関連の相談を受ける「メセナよろず相談日」を実施するとともに、関西の会員企業および入会勧誘を行っている企業・財団を訪問した。訪問を機に在関西の会員からも問合せや相談を受ける機会が増えた。

■実施日： 1/24、2/27、4/27、6/25、8/24、9/27～28、12/13～14

■場 所： 関西・大阪 21 世紀協会(大阪府大阪市中央区)ほか

4-2. 国際交流

【計画】 情報収集力を強化すべく、海外のメセナ推進機関や文化機関、在日大使館文化部などと定期的かつ積極的な交流を行い、ネットワーク構築と連携を強化する。日本のメセナ情報や協議会の事業についても英語で随時発信する。

- 国際交流基金理事櫻井友行氏と本田修文化事業部長と面会し、今後の協力関係の構築の端緒とした。駐日英国大使館や東京日仏学院機関など、在日の海外文化機関への訪問をはじめ、来日した文化関係者との面談や催しへの参加を通じて交流に努めた。
- フランスのメセナ協議会 ADMICAL やオーストリアの Austrian Business Committee for the Arts との定期的なメールコンタクトや調査協力を行った。
- 『メセナ note』73 号で、ルーヴル美術館ロワレット館長への取材を収録したほか、GBFund では米国ジャパン・ソサエティからの寄付が実現するなど、事業を通じた関係構築が図られている。

4-3. 協力連携

【計画】 メセナの専門機関として、企業をはじめ行政や教育機関、アート NPO 等からの相談、講師や各種委員としての協力依頼には積極的に対応する。

- メセナの専門機関として、文化関連機関や教育機関等からの、事務局職員等に対する委員や講師などの派遣要請や催しへの出演依頼に積極的に対応した。近年依頼数が増え、内容も多岐にわたるようになっている。
- アート NPO 等が主催する企画についての後援依頼にも協力した。

【協力対応状況】

※依頼元:五十音順

■委員・役員:35 件

依頼元	内容(委嘱期間)
京都文化ベンチャーコンペティション実行委員会	第 5 回京都文化ベンチャーコンペティション審査委員 (2011 年 9 月～2012 年 2 月 26 日)
京都文化ベンチャーコンペティション実行委員会	第 6 回京都文化ベンチャーコンペティション審査委員 (2012 年 6 月～2013 年 3 月)
独立行政法人国際交流基金	「2012 年度国際交流基金地球市民賞」選考委員
独立行政法人国際交流基金	平成 24 年度国際交流基金事業プログラム別外部専門評価 (2012 年 4 月 27 日～5 月 29 日)
埼玉県	埼玉県文化活動サポート団体助成事業選考委員会 (2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)
静岡県	静岡県文化政策審議会委員 (2012 年 5 月 23 日～2014 年 5 月 22 日)
静岡県	文化政策審議会評価部会 (2012 年 10 月 29 日)
財団法人地域創造	文化・芸術を活用した地域活性化(行政効果の検証)に関する調査研究会 (2010 年 8 月 11 日～2012 年 3 月 31 日)
財団法人地域創造	「災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究」 (2012 年 12 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)
東京都	東京都江戸東京博物館外 5 施設指定管理者評価委員会 (2011 年 7 月 11 日～2010・2011 年度評価終了まで)

公益財団法人東京都歴史文化財団	東京文化発信プロジェクト外部評価委員 (2010年6月～2012年5月31日)
公益財団法人東京都歴史文化財団	東京文化発信プロジェクト外部評価委員 (2012年7月～)
公益財団法人東京都歴史文化財団	トーキョーワンダーサイト外部評価委員 (2011年7月1日～2014年6月30日)
NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク	NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員 (2011年度～2013年度)
NPO 法人日本 NPO センター	NPO 法人日本 NPO センター評議員 (～2013年6月30日)
文化経済学会	文化経済学会(日本)団体監事 (2010年4月1日～2012年3月31日)
文化芸術による復興推進コンソーシアム事務局	文化芸術による復興推進コンソーシアム運営委員 (2012年5月30日～2014年5月31日)
文化芸術による復興推進コンソーシアム事務局	文化芸術による復興推進委員 (2012年9月25日～2013年3月31日)
文化庁	文化芸術の海外発信拠点形成事業協力者会議 (2012年3月8日～31日、2012年11月15日～2013年3月31日)
文化庁	平成24年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業協力者会議委員会 (2011年11月28日～2013年3月31日)
文化庁	文化政策の評価手法に関する調査研究事業に係る技術審査 (2012年11月21日)
文化庁	国立文化施設におけるパブリックリレーションズ機能の向上に関する調査研究に係る技術審査専門員
文化庁	次代を担う子どもの文化芸術体験事業(巡回公演事業)に関する評価・検証について (2012年5月23日)
文化庁	平成24年度文化芸術創造都市モデル事業審査委員 (2012年年3月～)
文化庁	平成23年度文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)選考委員 (2012年1月31日)
文化庁	平成24年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業協力者会議 (2011年11月28日～2013年3月31日)
株式会社ニッセイ基礎研究所	「文化政策の評価手法に関する調査研究(文化庁委託)」調査研究委員会(2012年1月16日～3月30日)
株式会社富士通総研	「文化政策の評価手法に関する調査研究」に係る検討会 (2012年12月27日～2013年3月29日)
横浜市	横浜市広報企画審議会 (2012年年8月2日、11月29日)
横浜市	横浜市創造界限形成推進委員会 (2010年9月1日～2013年8月31日)
横浜市	ヨコハマ創造都市センター(YCC)事業評価分科会 (2012年2月17日、10月22日)
横浜市	新港ピア(新港ふ頭展示施設)の管理運営業務委託プロポーザル評価委員 (2012年2月3日～3月31日)
横浜市	「新港ふ頭展示施設(ハンマーヘッドスタジオ新・港区)」事業評価分科会 (2012年11月1日～2013年8月31日)
公益財団法人横浜市芸術文化振興財団	アーツコミッション・ヨコハマ「都市文化創造支援助成」選考委員 (2012年5月21日)
和光市	和光市民文化センター指定管理者事業評価委員会 (2011年11月16日～2012年3月31日、2012年)

■講師:6件

依頼元	内容(期間・実施日)
子ども文化地域コーディネーター協会	子ども文化地域コーディネーター集中セミナー (2012年1月6日～8日)
政策研究大学院大学	文化政策プログラム授業『文化政策研究の基礎』(2012年6月28日)
財団法人全国公立文化施設協力九州支部	平成24年度全国公立文化施設協力九州支部業務マネジメントセミナー(2012年8月3日～10月20日)
日本大学芸術学部	「芸術総合講座Ⅰ」アート・マネジメント(2012年11月11日)
公益財団法人浜松市文化振興財団	「企業メセナについて」(2012年11月3日)
公益財団法人福岡市文化芸術振興財団	アートマネジメントセミナー2012 特別編「まじめに向き合う、あなたのアートマネジメント」(2012年9月27日～29日)

■出演:5件

依頼元	内容(期間・実施日)
財団法人かながわ国際交流財団	第5回21世紀ミュージアム・サミット(2012年2月4～5日)
公益財団法人東京都歴史文化財団	アートフェア東京2012 アーティスト・イン・レジデンスについてのシンポジウム(2012年3月31日)
公益財団法人東京都歴史文化財団	国際会議「文化の力・東京会議」(2012年8月3日～10月20日)
トヨタ自動車株式会社	社会貢献プログラム「トヨタ・子どもとアーティストの出会い」インタビュー(2012年7月10日) ※後日WEB掲載
一般社団法人日本管打・吹奏楽学会	「管打楽器の未来を語る座談会」(2012年7月4日) ※後日、学会誌『ACCORD』掲載

■原稿執筆:7件

依頼元	内容(媒体・発行日)
武蔵野美術大学	「企業メセナについて知ろう」 『造形ファシリテーション能力獲得プログラム』(2012年3月発行)
文化芸術による復興推進コンソーシアム設立準備事務局	調査研究報告書『東日本大震災、文化芸術の復興・再生の取り組み』(2012年3月発行)
公益社団法人日本照明家協会	「マエケナスの灯」 『日本照明家協会雑誌』「ステージドア」(2012年5月号)
日本都市計画学会	「メセナの動向に見る、企業と地域、アートのかかわり」 『都市計画』297号「都市計画はアートか？」(2012年6月25日発行)
日本音楽芸術マネジメント学会	「地域文化を牽引する、企業財団のメセナ活動」 『音楽芸術マネジメント』第4号(2012年10月25日発行)
よこはま市民メセナ協会	「高まる『地域メセナ』への期待」 『市民メセナ』よこはま市民メセナ協会 vol.13・14(2012年10月1日発行)
AAF ネットワーク実行委員会	『地域を変えるソフトパワー—アート・プロジェクトがつなぐ人の知恵、まちの経験—』(2012年12月10日、青幻舎発行)

■後援:8件

依頼元	内容(期間・開催日)
学校法人上野学園 石橋メモリアルホール	フォーラム「日本におけるファシリテーターの未来像」(2012年8月27日)
公益財団法人東京都歴史文化財団	文化の力・東京会議(2012年10月19～20日)
特定非営利活動法人 日本NPOセンター	市民セクター全国会議(2012年11月22～23日)

特定非営利活動法人日本ファンデレイジング協会	「ファンデレイジング・日本 2012～つなげ！未来へ～」 (2012年2月3・4日)
日本経営クラブ	第19回「世界の美術鑑賞&解説講演」(2012年4月25日)
日本経営クラブ	第29回「JMC・ミドルの日」(2012年7月27日)
日本経営クラブ	第19回「JMC・コンサート」(2012年11月7日)
株式会社ホテルオークラ東京	第18回秘蔵の名品アートコレクション展「東京美術学校から東京藝術大学へ 日本絵画の巨匠たち」(2012年8月3日～26日)

5. 顕彰事業

5-1. メセナアワード 2012

【計画】 22回目となる「メセナアワード」は選考委員とトロフィーが改変の年にあたることから、顕彰部会を中心に運営方法全般について検討をはかる。全国各地のメセナ活動の掘り起こしに努めるとともに、「文化による地域振興」をテーマとしたシンポジウムを開催する。

- 2012年度の公募にあたり、近年のメセナアワード受賞活動からメセナの動向を分析し、各地でメセナに取り組む企業からの応募を促すことを目的に、シンポジウム「地域の活力高めるオンリーワンメセナ」を開催。地域に根ざした個性的なメセナ活動に取り組む企業2社のトップと前選考委員の鷲田清一氏を迎え、約100名の来場者から好評を得た。

【シンポジウム開催概要】

「地域の活力高めるオンリーワンメセナ～近年のメセナアワードから～」

- 実施日:4月11日(水)
- 会場:アサヒ・アートスクエア(東京都墨田区)
- パネリスト:熊谷真一([株]シベール特別顧問/メセナアワード2009「文舞」両道賞受賞)
牧田 隆(油機エンジニアリング[株]代表取締役/メセナアワード2011解体新生賞受賞)
鷲田清一(哲学者/メセナアワード2009～2011選考委員)
- モデレーター:荻原康子(企業メセナ協議会事務局長)
- 参加者:約100名

- 「メセナ大賞」と「文化庁長官賞」の2部門からなる「メセナアワード2012」を実施した(文化庁後援)。メセナアワードでは3年毎に選考委員とトロフィーを変更しており、該当する当年度は新たな選考委員5名を迎え、トロフィー制作も3名の若手アーティストからのプランを受けて選出し川上幸子氏に依頼した。
- 4月1日から5月末までの募集期間に、全国から108件(98社・団体)の自薦・他薦による応募があった。うち35件は新規の応募案件であり、本業をいかしたメセナ活動や、ソーシャルビジネス、複数社による共同メセナなど多彩な取り組みが寄せられた。
- 顕彰部会の協力を得ながら、約3カ月間にわたり応募案件の調査・取材を行い、部会メンバーによる2度の検討会議を経て、9月に実施した2回の選考会で、以下の企業および団体の受賞を決定した。今年は、長年にわたる継続的な取り組みが注目を浴び、企業活動や文化活動を通じ、地道に培ってきたノウハウやパートナーシップをいかした点が高く評価された。
- 震災復興支援においても、以前からの活動やネットワークを活用し、企業の創意工夫により被災地を勇気づけようとする活動が多く見られた。さらに近年、地域社会に貢献するメセナ活動が活

発化する傾向が継続しており、2012 年にも地域へ参画していこうとする取り組みや全国的な広がりのある活動が受賞した。

- 贈呈式および記念レセプションを 11 月 22 日(木)、スパイラルホール(港区・表参道)にて開催。受賞企業・団体代表者、近藤誠一文化庁長官・河村潤子次長、メセナアワード選考委員はじめ、協議会会員等の企業担当者、芸術文化団体、報道関係者など約 300 名の参加を得て実施した。
- 贈呈式の開催ならびにトロフィー制作にあたっては、(株)ワコール／(株)ワコールアートセンターの協力を得た。

【メセナ アワード選考委員】 ※2012～2014 年度委嘱

- 坂本光司 (法政大学大学院政策創造研究科教授)
- 榎木野衣 (美術批評、多摩美術大学教授)
- 福岡伸一 (生物学者、青山学院大学教授)
- 松岡正剛 (編集工学研究所所長、イシス編集学校校長)
- 茂手木潔子 (有明教育芸術短期大学教授)
- 福地茂雄 (企業メセナ協議会理事長)

【メセナ アワード 2012 受賞活動および受賞企業・団体】

【メセナ大賞部門】	
メセナ大賞	アサヒビール株式会社 アート NPO の活動基盤強化への多様な支援と協働
歴史をひもとく賞	キヤノン株式会社 「綴プロジェクト」の実施
文化の映写機賞	株式会社千葉銀行 ちばぎんフィルムライブラリー
支援のこころ賞	トヨタ自動車株式会社 「ココロハコブプロジェクト～芸術・文化を通じた復興支援活動～」
四季のそよかぜ賞	株式会社帆風 帆風美術館の運営
未来のうけざら賞	三菱地所株式会社／株式会社イムズ／株式会社西日本新聞社 三菱地所アルティアムの運営、展覧会の企画
【文化庁長官賞部門】	
文化庁長官賞	東日本電信電話株式会社 NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] 活動



メセナアワード 2012 贈呈式



大賞部門トロフィー

6. 助成事業

【計画】 2012年度は、助成認定制度およびGBFundを含む協議会の「助成制度」のあり方を根本的に見直し、大胆に改革する年とする。①時代のニーズに即した制度運用、②プログラム開発・検証機能を強化する。

6-1. 助成認定制度

- 「助成制度のあり方を根本的に見直し、改革する」ことを目標として、助成ワーキンググループでの議論を重ねた。助成認定制度では申請手続きの簡素化や「赤字補てん」前提の制度を改訂した。
- 助成認定制度の審査委員長として、西洋美術館館長の青柳正規氏を迎えるとともに、任期満了にともない、映画分野の審査員が新たに着任した。
- 2012年度は4回の審査委員会を実施。認定件数は129件、助成寄付金は1,105件で3億4,223万円となり、前年度を上回った。

【2012度の認定件数】

	審査委員会	認定件数	申請件数
1	2012年度第1回審査委員会(3/7)	28件	37件
2	2012年度第2回審査委員会(6/22)	39件	45件
3	2012年度第3回審査委員会(9/7)	34件	39件
4	2012年度第4回審査委員会(12/05)	28件	32件
合計		129件	153件

※ 2010年度(4回):認定件数94件、申請件数198件、2011度(4回):認定件数125件、申請件数153件

【2012度の寄付件数と寄付金額】

期 間	寄付件数	寄付金額	平均寄付金額/件
上半期 2012/1/1～6/30	527件	1億6,221万円	30.7万円
下半期 2012/7/1～12/31	580件	1億8,002万円	31.0万円
合計	1,107件	3億4,223万円	30.9万円

※2011度(1月6日～12月31日):寄付件数946件、寄付金額2億8,462万円、平均寄付金額/件30万円

6-2. 震災復興支援事業

「東日本大震災 芸術文化による復興支援ファンド」(GBFund)

- GBFund 設立時からの寄付総額は8,500万3,342円、助成決定総額は7,721万7,462円となった。なお今年度より、GBFundの事務局管理費を3%から10%に改訂した。
- GBFundは第6、7回選考会を行い、64件を助成活動として採択した。選考に際しては、①被災者の心のケアにつながることを期待される。②被災地固有の文化資源にかかわる活動であり、地域再生の契機となることを期待される。③体制や活動計画が十分に検討されており、実現の可能性が高い。あわせて、「支援の緊急度」「被災地(地元)の関与度」「地元の要請」「継続・発展性」を勘案した。

- 東北・被災地の祭りや伝統芸能への支援を主たる目的として、GBFundの中に「百祭復興プロジェクト」の枠組みを設け、伝統芸能の専門家 2 名を新たに審査員として迎え、周知に努めた。なお同プロジェクトへの寄付を米国ジャパン・ソサエティに働きかけ、2012年より支援を受けている。
- GBFund の専用ウェブサイトの改訂とオンライン寄付システムの導入を実現。クレジットカードやコンビニからの寄付も可能となった。
- 昨年に引き続き、「三菱商事復興支援財団 東日本大震災復興支援助成金」に採択され、オンライン寄付システムの導入と被災地および助成先の視察、GBFund フォーラムの開催等、活動をより充実することができた。

【GBFund 選考委員】

- 片山正夫 (セゾン文化財団常務理事)
- 加藤種男 (企業メセナ協議会専務理事)
- 俵木 悟 (成城大学文芸学部文化史学科准教授)
- 船曳建夫 (文化人類学者)
- 吉本光宏 (ニッセイ基礎研究所主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)



東日本大震災
芸術・文化による
復興支援ファンド

企業メセナ協議会

【寄付総額・助成状況】

- [当面のファンド目標額] 100,000,000 円
- [寄付総額] 8,500 万 3,342 円 (2012/12/28 現在の着金済)
- [寄付件数] 843 件
- [助成総額] 7,721 万 7,462 円 (2012/12/28 現在、寄付先指定寄付を含む)
- [助成活動件数] 153 件 (2011/4/18~2012/11/13 までの累計)

【2012 年度の助成件数と助成金額】

GBFund 選考会開催日	申請数	採択(助成)数	助成総額
第 6 回選考(2012/5/28)	215 件	36 件	1,440 万 2,863 円
第 7 回選考(2012/11/13)	122 件	28 件	1,171 万 8,050 円
合計	337 件	64 件	2,612 万 913 円

- 設立から 1 年半を迎えるに際し、GBFund の今後の方向性や、文化領域の復興支援について考える「対話の場」をもちたいと考え、その一環として助成先(4 団体)が活躍する岩手県大槌町の「小鎗神社例大祭」を視察。郷土芸能が、地域コミュニティー復興に果たす役割について、現場を見ながら考えた。助成先の郷土芸能団体の方々、地元の方々との交流にも努めた。
- あわせて、寄付者に助成先の活動状況を周知し、今後の支援のあり方について共に意見交換をする「GBFund フォーラム」を東京で開催。助成ワーキンググループのメンバーによる運営で、分科会形式で行い、課題を共有しネットワークの構築に努めた。

【視察実施概要】

助成活動視察「岩手県大槌町小鍬神社例大祭の復活から学ぶ」

- 実施日:9/22(土)、23(日)
- 視察先:小鍬神社、大槌町内(岩手県大槌町)
- 内容:例大祭見学と町内視察 説明:元持幸子(NPO つどい)
- 参加者:17名(定員20名)



【GBFund フォーラム開催概要】

GBFund フォーラム「文化による震災復興の、これまでとこれから」

- 実施日:12月10日(月)
- 会場:電通ホール(東京都港区)
- 助成:公益財団法人三菱商事復興支援財団、協力:[株]電通
- ゲスト:アサノコウタ(プロジェクト FUKUSHIMA ! :福島県)
稲垣早苗(日本毛織 SC 事業部「ぬくもりを届けよう ニッケ+工房からの風から」)
岩間美和(向川原虎舞風虎会／おらが大槌復興食堂:岩手県大槌町)
上ノ蘭正人(東北九州プロジェクト)
小岩秀太郎(全日本郷土芸能協会)
佐藤敏博(小淵浜獅子舞復活プロジェクト／小淵浜通信:宮城県仙台市)
鈴木 拓(Art Revival Connection TOHOKU:宮城県仙台市)
高橋雅子(Arts for Hope:東京都目黒区)
元持幸子(NPO 法人つどい:岩手県大槌町)
吉原大志(歴史資料ネットワーク:兵庫県神戸市灘区)
- ファシリテーター(助成ワーキンググループメンバー):
市村作知雄(アートネットワーク・ジャパン)、石綿祐子(東京都歴史文化財団)、
大野マリ(日本オラクル)、片山正夫(セゾン文化財団)、根本ささ奈
(アサヒビール)、樋口昌樹(資生堂)、山本真由美(トヨタ自動車)、
吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)他
福地茂雄(企業メセナ協議会理事長)、加藤種男(同専務理事)、荻原康子(同事務局長)
- 参加者:126名(定員150名)



以上